（旧和商）

社団法人 和商同窓会会報

（新和商）

（発行所）和歌山市砂山南３丁目３-94　県立和歌山商業高校内　TEL36-6456　発行人　村垣　龍男（第15号）昭和61年３月１日（土曜日）

募金活動成果みのる

和商会館建設委員会報告

前回十四号で既報の通り母校創立八十周年の特別事業として「和商会館」（同窓会館）が、学校・ＰＴＡ・同窓会の総力のもと、みごとに完成されたが、その原動力としての募金活動においても、国税局の延期承認によって五十八年十一月より六十年十月まで丸二ヶ年に及び、最近にない熱列な支援をうけ昨年十月末日をもってその免税措置期間を終了した。

学校・ＰＴＡと同窓会の三者による和商会館建設委員会（委員長・村垣龍男）においては、去る十二月二十日に役員会を開催し、国税局への報告書その他を審議・承認して閉会となった。

（一面に募金収支決算書と募金額による明細…同窓会・ＰＴＡ関係、二面に主な建設経過報告を掲示）

募金収支決算書

（昭和58年11月～昭和60年11月28日）

収入の部 摘要	金額	支出の部 摘要	金額
同窓会募金	45,054.606	建設費	
ＰＴＡ募金	11,660,000	準備費	903,000
同窓会より	26,754,816	建築工事費	57,313,900
預金利息	145,296	設備工事費	17,376,100
		諸設備費	2,414,320
		諸経費	3,250,000
		予備費	0
		募金経費	
		消耗品費	45,865
		印刷費	863,445
		通信費	1,137,450
		会議費	14,672
		人件費	206,526
		旅費	9,800
		雑費	79,640
計	83,614,718	計	83,614,718

和商会館（同窓会館）建設に係る募金額一覧表

（昭和60年11月28日現在）

a. 同窓会関係

単価(円)	人数	金額	単価(円)	人数	金額
1,000	43	43,000	68,500	1	68,500
2,000	5	10,000	70,000	1	70,000
2,500	4	10,000	80,000	1	80,000
3,000	18	54,000	90,000	1	90,000
5,000	358	1,790,000	100,000	31	3,100,000
9,000	1	9,000	110,000	2	220,000
10,000	927	9,270,000	120,000	1	120,000
15,000	13	195,000	130,000	1	130,000
20,000	122	2,440,000	200,000	8	1,600,000
25,000	3	75,000	275,000	1	275,000
30,000	51	1,530,000	300,000	9	2,700,000
35,000	1	35,000	500,000	5	2,500,000
40,106	1	40,106	1,000,000	6	6,000,000
50,000	52	2,600,000	10,000,000	1	10,000,000
			計	1,668	45,054,606

b. ＰＴＡ関係

60. 11. 26 現在

	5,000	10,000	15,000	20,000	25,000	30,000	50,000	100,000	150,000	200,000	300,000	500,000		計
1年	60	259	1	2										322
2年	45	337	2	1		1								386
3年	99	142		5	1	1	1							249
60年3月卒業生	22	56	1	6										85
59年3月卒業生	50	49	1	5					1					106
職員				2			1				親和会 1			4
役員				1						1		1		3
計	276 1,380,000	843 8,430,000	5 75,000	22 440,000	1 25,000	2 60,000	2 100,000		1 150,000	1 200,000	1 300,000	1 500,000		1,155 11,660,000

「和商と私」

（旧四十五期）前田　信雄

第二次世界大戦の末期に近い昭和二十年の三月といえば、硫黄島の日本軍が玉砕し、日本の本土にも米軍機が来襲するようになってきた頃でした。その春の県立和歌山商業学校の新入生募集定員は一五〇名（三学級）で、志願者数は三一五名でした。仮住まいの和工専（現、和大経済学部校舎）の本館前に掲示された合格者番号のどんじりに三一三番とあり、第四十五期生として天下の和商への入学が叶い父とともに喜びあったことを今でも記憶しています。

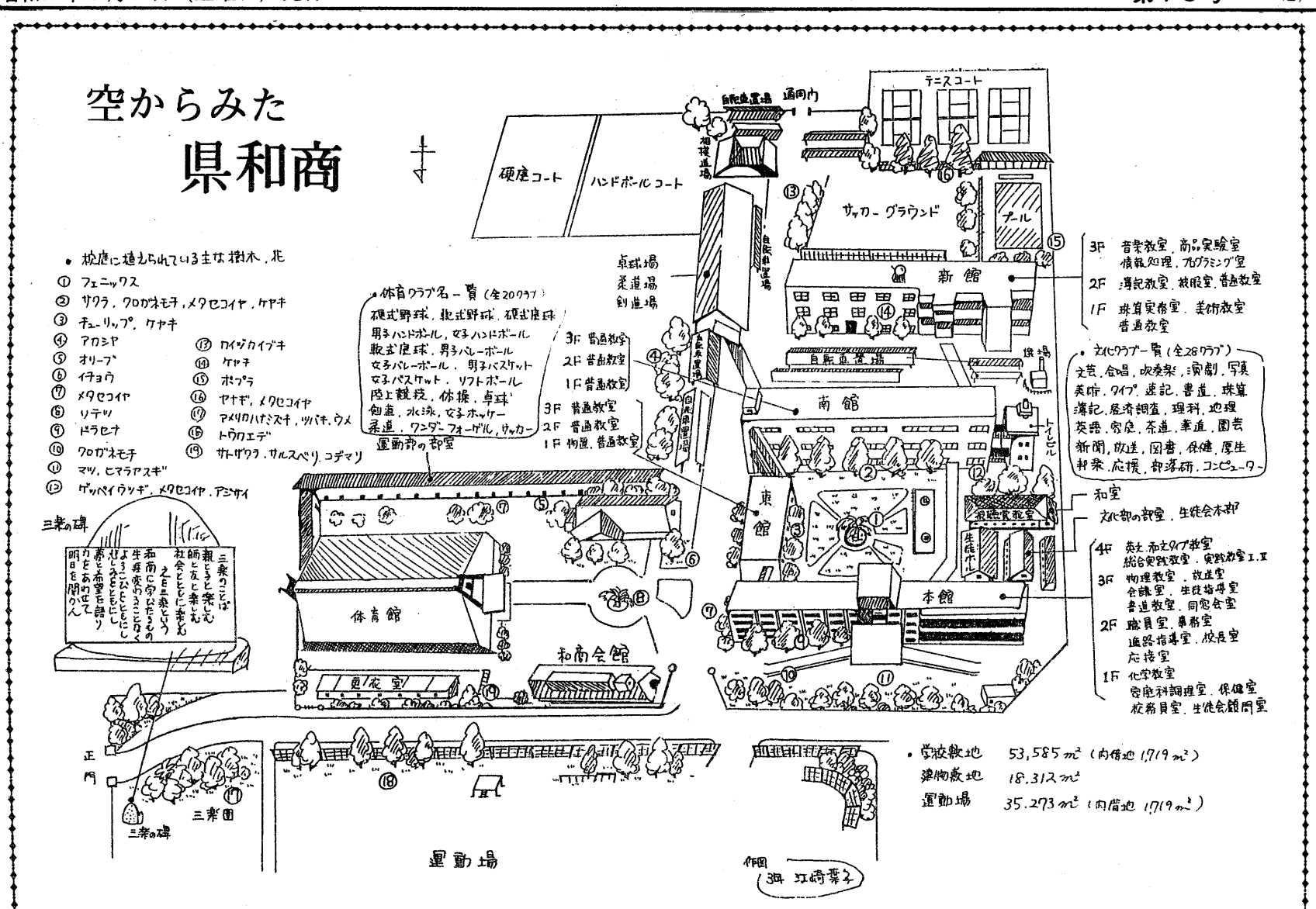
入学後しばらくは和工専の校舎で過ごしましたが、四・五年の上級生達は学徒動員に出ていたので、授業を受けていたのは一・二・三年生だけでした。関戸の和商校舎（現、星林高）は一時、暁部隊の兵舎となっていたが、隊員の一部が前戦へ出陣して行った為か、入学二か月後の麦秋の頃、和工専から和商校舎に戻れるようになり、机・椅子・備品等を先生と生徒がくたくたになりながら何度も往復して運びました。そして、ようやく関戸校舎での授業が行われるようになったのも束の間で、七月には和歌山市内が米空軍のＢ29による大空襲に見舞われ、私達が入学した年の一学期は正常な授業にならない状況でした。やがて戦火もやみ、上級生達も学校に戻り全学年が揃って授業を受けるようになったのは、二学期もずい分経過した頃でした。

和商で学んだ数年間には幾多の思い出がありますが、中でも忘れがたいのは今は亡き内藤校長先生のことです。当時は毎朝、全校生徒が集合し朝礼が行われていましたが、ある風雨の強い朝のこと、遅刻・欠席の生徒も若干あったが、未だ出勤されていない先生が多かったことに業を煮やされたのか、校長先生が壇上から大声で「……諸君とともに嘆く…」と怒号された。一年生の私は、ははあん、先生方が叱られているのだなと思ったものでした。このことだけでなく、入学式・卒業式といった機会毎に話された内藤校長先生の訓話の一言ひとことが、今、母校に勤務させて頂いている私には宝物のような教訓となっています。

一昨年、和商創立八十年を記念し、先輩諸兄の並々ならぬご尽力により、県下のどの高校にも類をみない立派な同窓会館が建設されましたことはこの上もない喜びでございます。諸兄からみれば子や孫に当たる在校生が時折、設備の行き届いた和商会館を使用させていただいています。殊に春休み・夏休み等の期間、文化・体育クラブの合宿の場としてお借りしていますが、生徒達は「こんな立派なところで合宿できるなんて幸せ過ぎる程だ」と、皆様方に感謝の念でいっぱいです。多くの後輩達は、先輩諸兄の樹立された偉業に少しでも追いつかんものと、勉学に、クラブ活動にと、毎日、まじめに取り組んでおり、徐々にすばらしい成果をあげつゝあることは誠に嬉しい限りです。しかし反面、残念なことに同窓の諸兄の目にも、これが県和商の生徒かと嘆かわしく映る無躾けな生徒が、極く少数とはいえ、見かけられることは否めません。

今、学校では教育方針のひとつとして、社会に送り出しても恥づかしくない人間性豊かな立派な県和商高生の育成ということに力点を置き、三宅校長のもとに全教職員が一致して指導に邁進いたしております。もとより私達は、自らをも厳しく鞭打って、課せられた任務の遂行に力を注いでまいる所存でございますので、同窓会諸兄の強力なご指導ご支援をお願い申しあげます。

（本校教諭）



自然に育まれる学園生活

(新13期)　白川　宏

昨年の中学生体験入学者用学校案内の中に「緑陰の中庭」「木陰で練習する吹奏楽部」という二つのタイトルのカット写真がありました。それは桜の木の下、ベンチで語らう女生徒、円形に椅子を並べ、フルートの練習をしている十人の女生徒を撮ったものでした。なんとも穏やかな雰囲気で学園生活の一部が紹介されていました。

私達が在学した昭和三十六年頃は、もと兵舎であった木造校舎から鉄筋校舎へと建て替えの時期で、砂山南三丁目の地名のとおり、堀り返された砂がいたるところにみられ、落ち着いた緑の記憶があまりありません。

その当時からみると現在の校庭は、さまざまな樹木が植えられ潤いのある佇いを呈しています。二年前にこの紙面に載せられている鳥瞰図の原案を作るため、校内に植えられている樹木を調べたことがありました。

その時、実にいろいろな樹木があるのに気付かされるとともに、四季折々に咲くそれらの花の美しさに魅せられました。

なかでも運動場と体育館の道路に沿って植えられている木々で、厳冬期、フェンス一面に数えきれないほどの深紅の花をつける山茶花、暖かくなってくる頃、純白の小さな花が無数にあつまり、圧倒されるような白の塊となって咲く小手毬です。

圧巻は、入学式もすんだ頃、大きく淡い紅色を、舗道一面に敷きつめ思わず踏むのをためらわす里桜、その他、正門の可憐なアメリカハナミズキ、梅雨時、ひっそりと咲く視聴覚教室南側の紫陽花と、校庭のどこかで四季折々の花が咲き競います。

「環境が人間を作る」ということばがあります。一つには、樹木の緑、花のミツや花粉、種子や果実と、しらずしらずに接することによって人間の感覚を育んでいることを言い表しているものだと思います。

大量生産、大量消費による「豊かな社会」の歪みが、さまざまな形で現われている現在、その反省から、ゆとりと潤いのある生活を求めて社会は変りつつあります。校庭内で日頃、なにげなくごく当然のように見過してしまう身近な緑から、その大切さを知りもっと大事に育てたいと思います。

（上図は昭和六十年度中学生体験入学者用につくられた「学校紹介」に掲載されたものです）（本校教諭）

会館建設経過報告（抜すい）

58.4.15	（相談役会）	会館構想、場所、建設資金等の検討
4.25	（常任理事会）	建設についての構想発表
5.7	（総　会）	会館について満場一致可決承認
6.14	（建設委員会）	主要設計事務所6社を推薦
7.11	（建設委員会）	建設概要その他検討の結果（設計は富松建設㈱）
7.19		県に申請書提出
8.27		県の許可書交付される
9.11	（常任理事会）	募金計画について
9.22	学校との話し合い	建設に関する件
9.24		税務署に申請手続き
10.17		国税局に申請
10.24	（理事長副理事長会）	事務局中間報告
11.2		国税局の許可おりる
11.5	（理事長副理事長会）	臨時総会について（建築と募金中心）
11.14	（臨時総会）	会館建設及び募金について諸説明
12.13	（理事長副理事長会）	企業寄附に関して
59.2.7	（理事長副理事長会）	企業寄附に関して
3.6	（建築業者説明会）	会館建築設計について
3.8	（理事長副理事長会）	入札に関して
3.15	入札公関発表	18社、学校、同窓会立ち会い
3.19	（理事長副理事長会）	日邦建設及び富松設計事務所との打合わせ
3.29	（理事長副理事長会）	地鎮祭について
3.30	地鎮祭	10時より学校、PTA、同窓会
4.17		工事着工
5.19	（常任理事会）	総会に関して
5.19	（総　会）	定例予算審議その他
6.15	（理事長副理事長会）	建築、募金に関して
7.9	（三者打合わせ会）	学校、PTA、同窓会
7.12	（募金推進委員会）	募金委員による
8.18	（新制和商役員会）	募金推進について
9.14	（理事長副理事長会）	竣工式関係打合わせ
9.25		国税局へ募金延長許可申請
10.1		竣工式案内状発送
10.20	（常任理事会）	竣工式関係及び募金について
10.22		国税局より募金延長許可
10.31	竣工式	10時より県和商講堂
11.9	80周年記念式典	会館贈呈
11.19	（常任理事会）	会館建築完成報告
60.2.23	（理事長副理事長会）	募金状況の報告
3.17	（常任理事会）	募金状況の報告及び今後の対策と支払い状況
3.17	（臨時総会）	募金状況と今後の対策
4.27	（新制会員の役員会）	新制会員の募金促進について
6.12	（理事長副理事長会）	募金状況報告
9.2	（理事長副理事長会）	常任理事会及び総会の日程等について

新第三十五期評議員

昭和六十一年三月卒業生

昭和六十年度卒業生による同窓会役員はこのたび次のとおり決定されました。

（理事は○印）

一組　高下　昌紀
和市、紀三井寺七三六

二組　宮本　浩明
和市、鷹匠町六丁目一六

三組　幸前　光紀　○
和市、加太一二八八

四組　橋本小百合
和市、北島四〇四―三二

五組　西野　享乃　○
和市、小雑賀六七一―一七

六組　堀岡　啓二
和市、新通二丁目五

七組　井馬　則江
和市、善明寺四一八六―五四

八組　久保　尚博
和市、大谷八三一―一二〇

九組　石坂　勝利
和市、北出島一―三―一四

十組　井口絵美子
和市、南牛町二八

十一組　松野　貴次
和市、砂山南一丁目一―七

十二組　南出　弘
和市、福島六八六